

横光利一「旅愁」校異 (三)

佐藤 絹子

凡例

一、本稿に使用した版は次の通りである。

・初出 『旅愁』(三)(十) 「文芸春秋」

(昭和十四年七月から十五年二月まで)

・戦前版 『旅愁』第一篇・第二篇 改造社

(昭和十五年六月・十五年七月)

・戦後定本 『横光利一全集』第十六卷・第十七卷 改造社

(昭和二十三年四月・二十三年五月)

二、(1) 校異Ⅰには、①初出、②戦前版、③戦後定本三者間の異

同を示す。ただし、便宜的に次のような表示法を採用した。

括弧内は省略した部分である。また i ii は形態としては同

一であるが、㊦の記号により改稿の時期の別を示した。

i) 初出と戦前版との間に異同があり、戦前版と戦後定本

との間に異同がない場合……③(Ⅱ②)↑①の形。

ii) 初出と戦前版との間に異同がなく、戦前版と戦後定本

との間に異同がある場合……③↑(②Ⅱ)①の形。㊦

は戦前版から定本に至る際に改稿されたことを示す記号である。

iii) 初出、戦前版、戦後定本三者間にそれぞれ異同がある

場合……校異Ⅰには*印を付して③↑①の異同のみを示

し、③↑②の異同は校異Ⅱに一括して掲げた。また校異

Ⅰで㊦をつけたものも加え、全体として、校異Ⅱは戦前

版と定本との異同を網羅できるようにした。

三、次の諸項のものは、原則として校異の対象としなかった。

(1) 句読点の異同。

(2) 振仮名の有無。

(3) 仮名遣い・送り仮名・同一語を表記する際の用字の異同

(4) 畳語の異同(例、こゝは↓こゝは)

(5) 改行・行あきのみの異同

四、異同は次の要領で示した。

(1) 漢数字はページ数、□内アラビア数字は行数を示す。

(行あきは、行数に数えない。)

(2) まず定本文の異同の生じている必要最小限の部分を示す。長文の場合は、途中を／＼で省略する。

(3) ↑の下に異文を示す。

ナシは、その部分が異文中にないことを示す。

(4) 定本文の行間に異文がある場合には、本文を省略し、
＜で行数のみを示し、異文を載せた。

(例) ⑥＜⑦「君、聞いたか。」——これは、定本文の6
行目と7行目の間に、異文では「君、聞いたか。」

という文があったことを示している。

(5) ／は行の改まったことを示す。

(6) 校異Ⅰの＊は、校異Ⅱ参照の意味である。

(7) 校異Ⅰの⑤については、凡例二を参照。

五、表記は便宜上原則として当用漢字を用いた。

校 異 Ⅰ

二四五⑩千鶴子は前の↑千鶴子はさう云つて前の

⑭僕らは↑

われわれは

二四八⑧こんな↑こんなに

二四九⑦動静も気がかりの↑動静も何か気がかりの

二五一⑤↑⑥感じるのだつた。↑感じた。

⑧久慈は窓から↑と

久慈は云つて窓から ⑭美しく見えるのだつた。↑美しさを

加えた。

二五二⑩⑤塩野さんの↑塩野さんとの

⑬いい話だな。↑いい

よ。」

二五五⑩三百になつて↑三百にもなつて

二五六②⑤日華↑日支

④⑤日華戦争↑日支戦争

⑥⑤日華

戦争↑日支戦争

⑦⑤中国↑支那

⑩⑤誇張せられる↑誇

張さられる

二五七④⑤中国↑支那

⑥皇帝がマルセーユで↑皇帝マルセー

ユで

二五八⑥衰へるばかりだつた。↑衰へるばかりである。

⑦学説

↑科学説 ⑧真ん中で↑真ん中ごろで

二六〇⑦ある意志に似た傾斜を↑ある意志を

⑩⑤日華↑日支

二六一②⑤日華↑日支

⑤といふことも。——↑といふことも。

⑥⑤中国↑支那

⑫こんなに↑ナシ

⑬このやうなことも、

今日は↑こんな事がらも、この日は

二六二①支那飯店↑支那飯屋 ①自分の考えも↑久慈の考へが ③あるのだ。——↑あるものだ。—— ④あちこち

日本の↑あちこちと日本の

二六三⑨そんなに↑このやうに

二六四⑨句はせて来るのだつた。↑句はせた。 ①放つてゐる。

↑放つてゐた。 ④思ひが↑思ひを

二六五②奴だな。↑奴だ。 ③眺めてから↑眺めながら ⑩気

の毒で↑可哀想で ④強く↑一つ

二六六①すぐ快活に笑ひ出した。↑すぐ快活になつて笑ふと一点光る白金を覗かせながら言つた。 ⑨探し出さうとする風で、

↑探し出さうとするらしく見回してまた云つた。

二六七②感じた。自分を↑感じ、自分を ③一切が……色どりのまま、↑一切がその煙のやうな形をなさぬ不安な色どりとなつて

二六八①日華↑日支 ③中国人↑支那人

二六九①そんな↑さういふ ①—⑥ひねくれたつて……愛

情だが。↑↑ひねくれたつてかまはない、日本だけは滅んでくれちや困るとひそかに思ふのだ。これを君は愛国心と云ふかもしれないが、そんなものぢやない。何といふか、たしかに世界の人間の忘れてしまった大切なものが、日本にだけたつた一つあ

るやうに思ふ。どうもそれは他の国にはなくなつてしまつたものだ。それが世界から無くなれば、世界は今にっちもさつちもいなくなるにちがひないと思ふ貴重な、ある云ひ難い精神だ。 ⑦何んだい? ↑何だい! ⑧父母と語る長夜の炉の傍に牛の飼麦はよく煮えてをり↑大神に捧げまつらん馬曳きて峠を行けば月冴ゆるなり ⑨—④和かさといふか……西洋の方だな。↑↑明るさといふか、とにかく涙の出る来るやうなものゝがまだまだ民衆の中に満ちてゐる。人なんか笑ふよりも、桃の花さへ笑つてくれてれば良いと云ふのと大分違ふ。ところが、日本と支那の知識階級はこのままゆけば、いまに西洋乞食になつてしまふことだけは間違ひない。乞食が日本と支那とを引き摺つていつてどこへ行かうといふのだ。どつちも西洋へ行くのが目的なら、お前は西洋ぢやない東洋だといつて蹴りつけ合ふにちがひなからう。こここの西洋は、東洋が喧嘩してくれるほど有難いんだからね。」

二七一③中国人↑支那人 ③日華↑日支 ④中国↑支

那 ⑤中国人↑支那人 ①中国↑支那

二七三④馬鹿に↑ナシ ⑤歩くと馬鹿にしよる。↑歩くと馬鹿にしよる馬鹿にしよる。

二七五④中国人↑支那人 ⑥中国人↑支那人 ⑥場所↑

用場 ⑦⑨中国↑支那人 ⑩⑨中国人↑支那人

二七六①⑨日華↑日支 ①—②西洋の模倣↑西洋模倣 ④⑨

中国人↑支那人 ⑭⑨大声↑大きな声

二七七③⑨中国人↑支那人 ⑧⑨中国人↑支那人 ⑩⑨実に見

事な↑巧みな ⑫⑨中国↑支那 ⑫—⑬それに諸君は……

反対をせられるか。↑それに何ぞ諸君は外国に来てさへ、われわれの空腹を満すことに反対をせられるか。 ⑬フランスで……

…外国で↑フランスであります。諸君は君らの尊敬する外国に於て ⑭われわれの↑われわれにとつて

二七八①—②戦ふときでも……モットオとした↑戦ふときにも敵

に塩を与へて決戦する、礼儀や仁徳の精神とした ④英国語

↑英語国 ⑦仕様がなないわい。↑仕様がなない。 ⑦勝ちぢや。

出ませうや↑勝ちぢや。待つてゐる方が負けに定つとる。出ませうや

二七九⑨わたしらは↑われわれは ⑪わたしらは↑われわれは

二八〇①話半分にしても市民の狼狽した話など↑話半分にしても、

土囊が市内の目貫の場所に積まれて機関銃が並んだり、議事堂を占領した一軍に対峙した官軍や、またその間に挟まれた市民

の狼狽した話など ④僕らは↑われわれは ⑥あつたけれ

ど↑あつたけれども ⑦⑨物事をするのにも↑物事をするの

に ⑬思ひ出すのだつた。↑思ひ出してひとり笑つた。

二八一⑥法がない。そつと↑法がない。みな左翼がしたのでよこんなに。そつと ⑨もう暢気で、ええ。↑もう暢気でやり

良い。こんなことなら、初めから何もびくびくするんぢやなかつたと思ひますからな。 ⑩謙遜に↑ナシ

二八二①こんな所↑このやうな所 ②思へず、傍の↑思へず沖

の顔を眺めつつ、傍の ③度を増し感じるのだつた。↑度を増し久慈は感じるのだつた。 ⑤顔を見た。そして、彼は↑顔

を見て彼は ⑤—⑥制御してゐるものかしらと、↑制御してゐるものかと、 ⑥考へ、↑考へつつ、

二八三②踊つてゐるうち↑踊つてゐるうち ⑫僕らは強味だ。

まだ若いぞ。↑われわれは強味だ。まだ若い。」

二八四④僕たち↑われわれ ⑥健康を祝します。↑アベ・ボ

トル・サンテ。」 ⑦コップを上げると沖に皆は↑と沖はコップ

を上げると皆は ⑩叩き回り↑叩き回つて ⑪—⑫いまい

ましいな。↑いまいましい。」

二八五①⑨あこがれてゐるかも↑あこがれてゐるか ⑦僕ら↑

われわれ

二八六⑦しきりと↑しきりに ⑦眺めた。↑眺め始めた。

⑨ケエドルセイ↑ギヤルドルセイ

二八七⑬叫んだ。そのうちに↑叫んでゐたが、そのうちに ④

消えると、真紀子も↑消えた。真紀子も

二八八⑭*ケエドルセイ↑ギヤルドセ

二八九⑮*ケエドルセイ↑ギヤルドセ

二九五⑯見たが、すぐまた↑見た。が、すぐまた

二九六⑰面白いよなかなか。↑ナシ ⑬姿となつて↑姿が

二九七⑱傍へ↑こちらへ ⑬⑮帰るところだつたとのこと↑帰

るところだとのこと

二九八⑲⑮議論する↑議論をする ⑪—⑫死んじまふね。↑死

んでしまふだらう。」

二九九⑳それや↑ナシ

三〇〇㉑東野大学なかなか↑東野大学をなかなか ⑦「君もま

だだよ。↑「君もまだだ、

三〇一㉒矢代は……云つた。↑と云つて矢代は東野の後姿を眺め
てゐた。

三〇二㉓どこことなく……上から↑藤原義江にどこことなく似てゐる

矢代の上から

三〇三㉔今夜は↑ナシ ④—⑤腹芸をやるんだ。↑ナシ ⑦

㉕香水のいいの↑香水いいの ⑩あなた一寸。↑ナシ ⑪

とさも面白くて↑さも面白くて ⑪—⑫降ろしてはまた鏡を

見た。↑降ろした。 ⑬困つたなア。↑ナシ

三〇四⑬自分も↑自分を ⑫あの方は↑あの人に ⑬どんな

具合ひに誘惑するとも限らない↑どんな上手い具合ひに誘惑さ
れないとも限らない

三〇五⑮でも、をかしいわね。↑ナシ ⑬さうよ。↑ナシ

三〇六⑯—⑰往つたり来たりするのだつた。↑往つたり来たりし
た。

三〇八⑱想像され、↑想像されて、 ⑩来るのだつた。↑いくの

だつた。 ⑪筈がない。——矢代は↑筈がない。これはいかん。

——矢代は ⑪なつて来たぞと↑なつて来たと ⑬㉑男爵

↑公爵 ⑭㉒*ばつたり……追つて来る。↑ばつたりとマルグリ

ットは倒れてしまふと人々が集つて来た。 ⑭—三〇九⑰追ひ

散らし、↑追つて、

三〇九⑰アルマンが来た。↑アルマンが来る。 ⑥氣取つたら、

↑氣取つたなら、 ⑥*限らないと思つた。↑限らなかつた。

⑧舞台を↑矢代はもう舞台を ⑧空虚さを↑動揺を ⑧矢

代は↑ナシ ⑪見せる以外、考へつかなかつた↑見せる以外

に考へつかなかつた

三一一⑨この方がいいや。↑ナシ

三一二①と思ふと、↑と氣がつくと、 ③笑みを泛べながら↑頬

笑みながら ⑨流れの中を緊迫した思ひで↑流れの中を一本の灼けた銅線のやうな緊迫した気持ちで ⑪身についたタキシイドの↑身についたびつたりとしたタキシイドの ⑫よく光る↑よく輝く ⑬—三—三①矢代は組み合せた……出るのだった。↑ナシ

三—三③矢代たちを見つけたらしく↑矢代を見つけて ④矢代は……縮まつていく↑焚きつけた炎の燃え移ったやうに矢代は一段とホールの輝きわたるのを感じた。縮まつていく ⑤見る度びに笑顔を↑見る度に懐しく笑顔を ⑥⑦「これまア↑「これはまア ⑫をかしい。↑ナシ ⑭見たときから……黙ったまま、↑見た瞬間からもう明るい勝鬨に似た安心さを感じ、足もおほどかに黙ったまま、

三—四①②手もとに↑もとに ②歌も、ある魅力が新鮮な魅力を ②—③③拡げるのだった。↑拡げていった。⑤そぐはぬ時の流れ↑そぐはぬひと時の流れ ⑪思った。↑思ふのだった。⑫幕間にもう一度↑幕間もう一度

三—五②労はりながら云った。↑労はりつつ云った。⑧腹が立つでせうね。↑腹が立つでせう。⑩ふと↑ナシ ⑩—⑪醒める暗黙の……襲つてゐるものなら、↑眼醒める暗黙の危機を感じ、またしても自分同様に千鶴子にもかうしてこの危機が刻

々襲つてゐるのであらうと思ひ、このやうだと

三—六①色調のまま矢代の皮膚を↑情調を帯んでとろりと皮膚を ①彼は↑矢代は ②密房↑部屋 ⑤危い植物のやうな……加へていくのだった。↑椿のやうなもろく儚ない事実となつて刻刻の薄氷のやうな刹那を二人で持ち合ひつづまます重さを加へていった。⑥ものの弾みの↑虚無の

三—七②今まで↑愚かな ③思つた。↑考へた。

三—八⑤こんな↑このやうな ⑥—⑦不機嫌だつた。↑不機嫌である。⑬真紀子は下の……酒場の方へ↑真紀子は云つて下の遊歩廊の左手の方を覗いた。矢代は見ると、酒場の方へ

⑭真紀子がデッキでよく踊つた高有明↑真紀子がときどきデッキで踊つたことのある高有明

三—九①経済を出た↑経済を出て ④真紀子は矢代を↑と真紀

子は云ふと、矢代を ⑤横から↑ナシ ⑥笑ふと↑矢代は

笑ふと ⑦矢代は↑ナシ ⑧感じて来るのだった。↑感じて来た。⑧—⑨露台の方の矢代を↑露台の矢代を

三—〇②拭きながら、↑拭きつつ、

三—二④流れていった。↑流れていくとはいへ、⑤故もなく動悸が激しくなり、↑ナシ

三—二⑤—⑥戯れてゐる。彼はふとチロルで↑戯れてゐるのが、

ふとチロルで ⑥美しさを思ひ出した。↑美しさのやうに見えた。 ⑨見え、早く↑見え、矢代は早く ⑨彼は↑ナシ

⑪舞台は↑しかし、舞台は ⑪少し↑ナシ ⑬マルグリットが這入つて来た。↑マルグリットが黒い衣裳で這入つて来た。

三二三①感じた。何気なく仰ぐと↑感じたのでふと仰ぐと ⑩

⑫中国人↑支那人

三二四③向いてから↑向いてみてから ⑤マルグリットの衣裳

の↑マルグリットの黒い天鵝絨の衣裳の ⑦自分にも分らぬ

↑底知れぬ ⑦―⑧揺れて来る楽しさ↑揺れて来るやうな楽しさ

⑫「あら、汚れたわ。」↑「あら、タキシード汚しちや

つたわ。」⑬そして、笑ひながら、↑ナシ

三二五①と云ふと矢代の↑千鶴子は笑ひながら矢代の ①―②

身動きすると……感じた。↑身動きする度に一層新鮮に高まり

進む鼓動に眼が眩んだ。 ③二人の中へ……来るためもあつた

が、↑自分たち二人の喜びの中へ嫉妬のやうに割り込んで来る

食ひ違ひのためであらうかと思つたが、 ④思ひ↑思つて

⑤触れるのも↑触れて来るのも ⑫手だつたかしらと、ふと

そんな↑手だつたかしら、そんな

三二六①腰を降ろしひとり↑腰を降ろすとひとり

三二七③自分も↑ふと自分も ⑨降りかかつて来る。ソアレの

↑降りかかつて来て、ソアレの ⑩祝典と思へば……さうだつた。↑祝典のやうにさへ感じられた。 ⑫―⑬悸めきに似た

……ほどだつた。↑躡きに似た興奮で、やたらに人人にお愛相を振り撒きつつ歩いてゐるやうに思はれた。

三二八②前から↑すると、前から ⑤この夜の愉しさも……

思つた。↑この夜の美しさはチロルの氷河よりもはるかに汚か

つただらうと思つた。 ⑥戻つて来た。↑這入つて来た。

三二九⑦―⑧中国人↑支那人 ⑧危険があると見なければならぬ。↑危険を含んでゐると見なければならぬ事情がある。

⑭幕が上り、↑幕が上つて、

三三〇④矢代は↑矢代も ⑨どうですの。↑どうしたの。

三三一①出ていつた。彼は↑出ていつた。しかし彼は ②充分

泛んだ↑充分頭に泛んだ ②むしろ踊りに誘つたのは↑それ

なら踊りに誘つたのはむしろ ②―③相違ないと……心配も

↑相違ないと思へて来て、自分の万事の心配も ⑤見降ろし

ながら、……ひと夜を↑見降ろしつつ、それでは彼女も自分のや

うに今夜ひと夜を ⑧ウォルトがひとり↑ウォルトの匂ひが

ひとり

三三二①房↑密房 ①思ひ、↑思つて

三三三①房↑密房 ①思ひ、↑思つて ②―③ぞろぞろとし

た姿で↑ぞろろとしたそのままの姿で ③―④乗り憑いたま

ま、……盛装の中で↑乗り憑いたやうに盛装の中で ④—⑤
並ぶのであつた。↑並んだ。 ⑩—⑪表へ光りが……すすつて
ゐた。↑表へ射してゐる柔い光の中で、その光に照し出され、
売春婦たちが円くテラスに塊つたまゝ遅い夜食のスープをすす
つてゐる。 ⑪—⑬三三三①矢代も空腹を……ホテルへ戻つた。

↑矢代も空腹を感じてためらつたが、その角を折れ曲つてホテ
ルへ戻りつくと千鶴子からの電話を待つた。

三三三②するばかりである。↑するばかりであつた。 ③電話は

かかつて来なかつた。……千鶴子↑電話のかからぬところを見
ると、千鶴子 ⑤増して来た。↑重みを加へて来た。 ⑨良
いか。↑ナシ

三三四④厭ふほど↑厭ふほども ⑩のんびりとする。↑ナシ

三三五④受け答へしながら↑受け答へをしながら

三三六②添つて↑ナシ ⑧⑨思つて。↑↑思つて？」

三三四①と矢代は思つた。↑と感じられる。 ②③中国↑支那

④⑤中国↑支那 ⑤ひどい目↑袋叩き ⑩⑪中国↑支那
人

三三四①⑤中国人ね↑支那人ね ①⑤中国人が↑支那人が

⑦僕たちと↑われわれと

三四六⑦笑ひ↑笑つて ⑧だんだん↑ナシ

三四七⑤⑨なつてしまつたことは、↑なつてしまつたとは、

三四八②ほんたうかどうか↑ナシ ⑫⑬樹幹↑樹の幹 ⑭暮
したやうなものだな。↑↑暮したやうなものですな。」

三四九⑤感じてゐるらしい風情で、↑思ひ描いてゐるものと信じ
るらしい風情で、 ⑩退けて↑ひき退けて

三五〇①云つた。↑ナシ ⑫恐れ↑快感 ⑬抑へ難い↑ナシ

三五二①ボーイ頭↑ボーイ ③電氣の消えた↑電氣の消えてゐ
る ④映つて見えた。↑映つてゐた。 ⑤—⑥ボーイの後ろ

……三人の服も↑ボーイの後ろの三人の黒い服も ⑦訊ねた
り↑質問したり ⑩続いてゐる↑並び続いてゐる ⑩カフ

エーを見回したが↑カフエを見回してみたが ⑪ガラス戸を
↑皆ガラス戸を ⑪一人の客も↑客を一人も ⑪あちこち

と↑あちらこちらと ⑬知るに及ぶと↑知ると

三三三①来ては、威勢よく↑来て、 ③前で高く上げるのだつ

た。↑前に高く上げた。 ④和し↑和して ⑥歩いていくに

随ひ、↑歩いていつた。ところが、 ⑦ところにも↑ところ

⑨大戸を……街は↑大戸に閉め降ろされてゐるので、街が

⑩商品類も↑商品類は ⑩—⑪⑤手錠を嵌められて↑手錠嵌
められて ⑬風情に見えた。↑風情である。

三五四③考へねばならなかつた。↑考へなければならなかつた。

⑦放れ散つてゆくやうに↑そのやうなものだつたやうに ⑨
思ひ、通りを↑思ひ、千鶴子と通りを ⑩—⑪もうこんなに
……探したくなり、また、↑しかし、こんなに一杯のコーヒー
さへ飲めないのかと思ふと、飲ます家のあるまで矢代は探した
くなつて来た。また、 ⑫—⑬定めねばならぬと……分らない。
↑定めようとだんだん元気になつて来た。さうして、何をする
かもう自分には分らない。

三五五⑧そんなに云つたのだつたが、↑そのやうに云つたのであ
つたが、 ⑨悲しみあるとはいへ↑ナシ ⑨それと↑それと
は

三五六②ことなくとも↑こととは限らない、 ③あるひは↑ナ
シ ④—⑤またそのやうに……来るのだつた。↑そのやうに
また思ひ直して、ひと時の旅路をふり返つてみるのだつた。

⑦たつた二人きり↑あなたと僕とたつた二人きり ⑦まアと
にかく↑ナシ ⑪—⑫「ジョセフィヌさん、……でせうねき
つと。↑「ぢや、あたし、ジョセフィヌ?でも、こんなに
あの方毎日ここから眺めていらしたのね。きつとそのときもか
うだつたんだわ。 ⑫—⑬河みたいだわ。美しいのね。」↑河み
たいね。」

三五七③さまもまた思はれる↑さまも思はれる

三五八②周囲の沼と↑周囲の沼の

三六一⑩千鶴子は……声だつた。↑と千鶴子は訝しさに訊ねた。
⑪こののは↑ここは ⑪みたいなものでせう。だから↑みた
いなもんだから、 ⑫—⑬するのでせう。↑するでせう。

三六二⑧—⑨生きた有の一点……動いてゐる人間の↑生きてゐる
一点であるから、無を含んでゐる有の原点です。つまり生命で
す。一切の生活の原点が無と有とぢや、そこを中心として流動
していく人間の ⑨—⑩有るものと……違ふ。」↑動いてゐる
ものと動かぬものとぢや第一質からして違ふ。」⑪ちがふのか
しら。」↑ちがふんですのね。何もかも。」⑫千鶴子の↑と今さ
ら感じたことのやうに千鶴子の ⑬「それや同じ……無にし
たものなら、↑「何もかも違ふ。同じ部分があつたにしたとこ
ろで、 ⑭—⑮三六三①つまりそれは科学でせう↑ナシ

三六三①—②僕らは何んと云つても↑われわれは生きてゐるんで
せう。何と云つても ④といふ風な問題が↑といふ問題が
⑤分らんものだから↑分らんもんだから ⑥するんだな。↑
してるんです。 ⑧⑨世界でだけ↑世界でだけで ⑭さうさ
う、↑ナシ

三六四⑦⑧放射状↑放散状 ⑧僕らは↑われわれは ⑧しか
し、ここに↑しかし、われわれはここに ⑫—⑬通りはお墓

の無と有↑通りは無と有

三六六⑭いふんですがね。↑いふんです。」

三六七③美しいとこだな↑美しいところだな ⑧望むべきで

ない↑望むべきではない ⑬要求してゐるのに↑要求してゐるに

三六八⑫羨ましい。——↑羨ましい。——

三六九⑨楽しめた。↑楽しかった。

三七〇②来るのは大変↑来るの大変 ③背には、↑背に、

三七①②立つて↑起つて ④早いものだなア。↑早いものだ

な。」⑩千鶴子は喜んだ。↑ナシ

三七二⑨僕ら↑われわれ

三七四⑩行きませう。↑行きませうよ。

三七九⑬跳ね↑ナシ

三八①⑫匂ひだけを↑匂ひだけは

三八二⑩舗石↑整石

三八三④⑤いまいましく思ふ↑いまいましくも思ふ ⑬⑭

中国↑支那

三八四⑤⑥いつも日本人……ことではなかった。↑塩野は千鶴

子のロンドンにゐる兄と暁星の同窓で、夜会に千鶴子をピエー

ルに紹介した大使館付の優秀な写真技師だった。

三八七②⑤中国↑支那

三八八②真面目↑駄目

三八九①僕ら↑われわれ ③僕ら↑われわれ ⑦僕ら↑われ

われ ⑧僕ら↑われわれ ⑭僕ら↑われわれ

三九〇③⑤思つてゐる。↑思つてゐる。

三九①⑧と久慈に……塩野は、↑と久慈に呼びとめられても、

⑩と云つて↑と塩野は云つて ⑩払つて↑払つてから

三九二⑩名残りをとめた↑顔をしてゐる

三九四⑧⑤真紀子も↑と真紀子も

三九五①⑤公衆便所に↑公衆便所へ ②出て来た。そして、↑

出て来たが、 ⑤⑤ひねつてから↑ひねつてゐてから

三九七④少くしたのと↑少くしたと ④威を放ち↑威を放つて

三九九③微笑のまま↑微笑して ⑩と云つて笑つた。↑ナシ

⑬⑤意識を↑意識も

四〇①③④異議ありさうに……云つた。↑にやにや笑ひながら

久慈に、 ⑪また↑ナシ

四〇③⑤憑かれて……熱心さを↑憑かれましたみたいなの彼の熱心を

四〇④①まア↑ナシ ②秩序とも↑秩序と

四〇⑥僕らも↑われわれも ⑫あつたのも↑あつたのは

四〇七②また一つの……出くはした。↑一つの別の鉄の扉にまた

い音を立てつゝ

④塩野は↑ナシ

⑥と云ひつゝ↑と塩野

が↑ナシ
 ⑦見つけた。↑見つけたが、
 ⑧固くて↑固く

⑧久慈と二人で肩を↑男二人肩を
押してゐるうち、

四〇八①埃りだな。↑埃りだね。」④精霊の……感じた。↑久慈

は精霊の巻きつきさうな冷たさを感じた。
 ⑬ 押しつける ↓ 押

しつけて来る

14—409 突然久慈の肩に飛びつき、↑突

然たまげるやうな声で、

四〇九^③と叫んだ。↑と云つて久慈の肩に飛びついた。^⑫石の

ざらざらした肌↑石の荒いざらざらの肌

四一〇 **④** 蝙蝠だけ↑ 蝙蝠だけが **⑤** 肩の鳴る音↑ 肩のどしんど

しんと鳴る音

⑦そこは↑ナシ

⑧積つてゐる。↑積つて

ゐた。
 12 今度も↑ナシ
 14 破片がぼろぼろ↑ぼろぼろと破

片が

四二一 ④ 息苦しさに↑息苦しさに
⑭ 衝きあたるときにも

↑衝きあたる度に、

四一二 ② 闇の中で↑ふと ⑦ 塩野はそんなに云ひながら↑と塩

野は云ひながら
 ⑧ いら立たしさうな声で、↑いら立たしさ

うに、
 ⑩また別のを嵌めてみた。↑別のを嵌めた。
 ⑫彼は

↑塩野は 13 下に鮮やかな……印けて↑下に新しい条目を鮮

やかに印けて

四一三⑧と云ふと↑ナシ
⑨もう↑ナシ
⑩僕ら↑われわれ

四一四②出来ないらしく。↑出来ないらしく、
④こんなに

……呟えてゐた。↑とこのやうに訊ねる眼にも、階段を昇つた

興奮の記憶がまだかすかに影をひそめて美しく匂つてゐた。

⑪ 乗り移り、↑乗り移つて来て、
⑪ 歪むのが感じられた。↑

歪んで来てならなかった。
 12 分るぞ。↑分るよ。
 14 二人だ

つた。↑二人である。

四一五 飛び立ち、ぐるりと……散つてゆく。↑飛び立った。

⑤ 向けてゐた。↑向けてゐるところだつた。

四一六 6 あるんださうだよ。↑あるんださうな。 13 決心するの

だつた。
↑決心した。

(第十七卷)

三 ⑧ うすうすうすうすうすうす

四七云ひ捨てるやうにして立ち、↑立つと、

五[4]何んだ。↑何ものだ。
[6]石が↑宝石が
[6]久慈の表情は

無くなつた。↑久慈は眼を見張つた。

七③向くどこに↑向く真紀子の間のどこに ④緊張にも、……

手のような↑緊張に、何んとなく風に鳴る弦のやうな都雅な心のひそまつた ⑥「すみませんが、……忘れたの。」↑「すみ

ませんが、あのう、そのテーブルの上にハンドバッグがあるでせう。あれとつて下さらない。」⑦ぱつと……光りを背に↑

ぱつとまばゆいばかりの瞬間の光を背にして ⑦—⑧ゆるやかに……近よつた。↑久慈はゆるやかに縋を描いてゐるその湯

気の方へ近よつた。⑧受けとる腕が浴室の腕のやうに↑受けとる真紀子の腕が浴室の暖い光線の腕のやうに ⑪—⑫触感

も思ひ出され、……と思つた。↑触感を思ひ出すと、今日一日の自分たちのしたことや思ひ悩んだことが、よし譬へこのまゝ

滅んだとしても、いつまでも誰かが受けつぎ、しつづけてゆく連鎖のその一鎖りだつたのだと思つた。

八③またも眼に泛んだ。↑眼に泛んで来た。⑤かけてやらうと……夢のやうな↑かけようかと思つたが。ふと今ごろは彼も夢

のやうな ⑥今は↑ナシ
九④何んでも良い。↑もうそれは何でも良い、⑭ねばる↑ねばりつく

一〇①出て来た。↑出て来たが、④今まで知らなかつた↑今日

まで気づかなかつた

一一⑤向つては……眼立つのだつた。↑向つてはそれも気分をぶち壊す作用をして、嘘だけ急に飛び出て眼立つのである。⑧

磨いた。↑磨いてゐた。⑬頭の中の↑頭の中にある ⑬中が空に↑頭の中が空に

一二②襟にさした。↑襟にさしながら言つた。④顎を引き、↑顎を引いて ④と軽く笑つた。↑と笑ひながら ⑨云はれ

るまゝ↑ナシ ⑩あるかね。↑↑世の中にあるかしら。」⑫「お茶か。」↑「さうかね。」⑬久慈は……母は云つたと↑と久

慈はかう云つたが、お茶の師匠にもなれる母のことをふとまた思ひ出すと、そのやうなこともよく母は言つたと ⑭かすめ

過ぎる……黙つて↑どちらもそのまま黙つて
一三④ドアの方を振り向いて見てゐる間に↑黙つてドアを見詰めてゐる間に ⑦さも↑ナシ ⑦—⑧真紀子は……首を傾け

て↑ナシ ⑬引きとめた。↑引いてとめた。
一四④来るのだつた。↑来た。⑦「何に？」↑「何によ？」

⑪弾み上つて……抵抗もなく↑弾み上つてゐても爽やかな流れが何の抵抗もなく

一五⑩理由もなく↑ナシ ⑫妙に大きな声で↑ナシ
一六①笑顔の中に↑笑顔の中にも ③久慈には↑久慈にも

⑫「僕らの↑「われわれの」 ⑬つもりもなく↑つもりでなく
一七①⑤お邪魔かしないけど。」↑お邪魔かしないけど。」

②―③皆初めての↑皆誰も初めての ③すんだ。椅子が↑す
んだが椅子が ⑨僕らは↑われわれは ⑨まア来たからに
は、何かの↑まアわれわれは来たからには、何らかの ⑫⑤

中国↑支那 ⑫―⑬さういふ所を……したいんです。↑ナシ
一八③僕らは↑われわれは ⑧問題が気に入つたと云ひたげに
↑ナシ ⑨反対に↑ナシ ⑭合理性を↑合理性を

一九②―③来たからな。↑来たからね。」 ④襲つて来た。しかし、
↑襲つて来るのを感じたが、 ⑦だから……誤るのだ。↑ナシ
⑭僕らには↑われわれには

二〇③⑤中国↑支那 ③―④採り入れてをりませんから↑採り
入れてゐませんから、 ⑩⑤中国↑支那 ⑪⑤中国↑支那
⑬僕らは↑われわれは

二一②ふと↑ナシ ⑧⑤中国↑支那 ⑨⑤中国↑支那 ⑪
⑤中国↑支那 ⑫⑤中国↑支那 ⑭黙つてゐた。↑黙つて
ゐたが、

二四②―③と矢代は……始めた。↑ナシ ⑨並んでたんだから、
……みたいだ。↑並んでゐたんだから、まるで夢のやうなもの
だ。

二五③僕らに↑われわれに ⑤忘れたらしくだんだんと↑忘れ
たらしく久慈にだんだんと ⑤―⑥久慈は二人の……乗り出
した。↑ナシ ⑪僕らは↑われわれは

二六①⑤頭と合理だ。↑頭とは合理だ。 ①政治ぢやない。↑ナ
シ ④戦争といふ政治ばかり↑戦争ばかり ⑧がつかりと

した久慈は勢ひを↑久慈は突然勢ひを ⑪「あら。」―千鶴
子は↑「あら。」／千鶴子は ⑫久慈は千鶴子の↑久慈は傍に
真紀子がゐるにも拘らず、千鶴子の ⑫瞬間↑ナシ ⑬ゆ
らめきを感じた。↑ゆらめきを瞬間胸に感じた。 ⑬―⑭それ
も、もう……惜しまれるのだつた。↑ナシ

二七①―③思い出をも……ゆくのだつた。↑思ひ出を暫く曳いて
視線のやり場を失つたが、黙つてゐる身体はだんだん千鶴子の
方へ向つて膨れ傾いてゆくのだつた。 ⑦笑つた。↑笑つて云
つた。 ⑪次ぎ次ぎに泛かんで↑次ぎ次ぎに眼に泛かんで

二八②坐ると高に、↑坐つた。 ③⑤中国↑支那 ③僕らは↑
われわれは

二九⑤⑤中国↑支那 ⑫索す↑探索する ⑭「いや愛国心に
↑「いや、それや、素人の云ふことだ。愛国心に ⑭中国の
……といふことだよ、↑だから、支那のインテリは抗日抗日と
いふんだ。

三〇①こつちは↑ナシ ②戦争だ。↑戦争だらけにならうぢや

ないか。 ⑤愛国心だけは持つて↑愛国心だけはちゃんと持つ

て ⑦気の毒だよ。↑お気の毒だからね。 ⑧久慈は高のコ

ップに↑と久慈は空になつてゐるコップにそれぞれ ⑧―⑨

と矢代の……会釈した。↑と一寸高の方に頭を下げた。 ⑩僕

ら↑われわれ ⑫⑬中国↑支那 ⑭⑮中国↑支那

三一①練習も↑習練が ③④中国↑支那 ③来るまで↑来る

までは ⑧⑨中国↑支那 ⑧譲る↑奪らす ⑨譲つて↑

奪らして ⑪笑ひ出したのは↑笑つたのは ⑬急に↑突然、

三二①お話はないわ。↑お話ないわ。 ①②中国↑支那 ②危

く↑と云ひつつ危く ②肱↑背 ③ぼろぼろと崩れ落ちた。

↑崩れて落ちた。 ⑩光つて来た眼を高の方に↑高の方に光つ

て来た眼を ⑬―⑭手を入れ……突き除けた。↑手を入れて

寝台の方へ立たせようとしたが、ぐたぐたになつた柔軟な真紀

子の身体が、強い弾力の塊りとなつて底から久慈を突き払つた。

三三③起き上ると、……コップを↑真紀子は身体を起すと、皆の

眼をさもうるささうに誰からも視線を反らして半眼のまま、ま

たコップを ⑦―⑧久慈の驚きあきれて↑久慈は驚きながら

⑩彼の火↑高の火 ⑩また↑ナシ ⑬やうだつた。↑やう

に思つた。

三四④真紀子は↑と真紀子は ④にたりとした笑みを泛べ↑に

やりとした笑みを泛べながら ⑤引つぱりながら、↑引つぱ

つた。 ⑧海を見て↑海を見ながら ⑫―⑬匂ふ潮の香を…

…眼になつた。↑匂ふ思ひ出の噴霧器で匂ひを浴びたやうに

「うむ、うむ。」と柔いだ眼で云つてゐた。

三五④御機嫌だね。↑御機嫌ですね。 ⑥折れ崩れて↓折れ曲る

と ⑧―⑩主人と離別して……眺めるばかりだつた。↑その

うちそれぞれ主人と離別して来てゐる真紀子の身の上を思ひ出

したと見えて、手をつかねた憐れみの眼で蠢めく真紀子の背の

波打つのを見てゐるばかりだつた。 ⑫ひき起さうとして寄つ

てゆくと↑ひき起さうとしたとき ⑭⑮いいんですよ。↑い

いんですよ。 ⑭何んでもないの。↑ナシ

三六①矢代は↑矢代も ①立つて↑立ち上つて ②潮鳴り

の↑突然潮鳴りの ③④立つて↑立つた ③戻つて来た。

↑戻つた。 ⑤凭れひとりコップを舐めてゐるが、↑凭れたま

ま空虚な眼ざしでひとり煙草を吹かしてゐるが、 ⑥真紀子に

……潤んでいく↑真紀子からかけ離れてゐる冷いものが胸の中

で朧ろに崩れ潤んでいく ⑧小娘の……少し膨れ↑まるで拗

ねた小娘のやうに音無しい表情で ⑨久慈は……つきながら、

↑久慈はふツと溜息に似たものが口から軽く出たが、 ⑩―⑫

「もう少し……久慈は残つてゐる↑「もう飲まないの。」と笑つて訊ねた。／「駄目。」／「君は人を追つ払ふ名人だな。驚いたよ。」／久慈はまだ残つてゐる 13—三七2しかし、彼は……なつて来た。↑しまつたと思つた途端もう何か脱れたやうな勢ひで前方に見える燈火に似たものに向つて飛び込んだ。

三七3「あなたもう↑「あなたもう 4—8真紀子もう……

……と久慈は云ふと、くらくら↑真紀子にとめられればとめられるほど久慈は一層飲みたくなつて飲んだ。／「われわれはどうしてこんな風に生れたんだ。どうしてこんな不合理があるんだ。」／久慈はくらくら 8見据ゑて立ち上つたが↑見据ゑ、「畜生ッ」と云ふと 9伝ひ↑伝つて 10差さうとした。しかし、↑差さうとしたが、 11ぢつとしてらつしやいよ。↑ぢつとしてなさいよ。 13ちやんと……あるさ。」↑ここにあるぢやないか。ここに。」

三八9窓をあけ……消した。↑窓をあけてあたりの乱れを片付け部屋の灯を一つ一つ消した。 10小さくなつて↑小さく踊んで

三九1——仕立てた↑仕立てた 8気持ちもするのだつた。↑気がした。 11呟いた。↑呟いてみた。 11賞められ、絶えず嬉しさうに↑賞められて嬉しさうに

四〇8⑧全く↑全くの 9—10聞えて来た。↑聞えた。 11自

由を↑自由さを 13とひとり頷いた。↑と久慈は頷く気持ちだつた。

四二6⑥彼には↑彼は 9ひとり美の↑ひとりの美の 13擦

りよせて舐め↑擦りよせて来て舐め

四三1ぶよツと↑ぶよツと 7ホテルがあつた。↑ホテルがある。

四四6とまた↑と再び 11苦笑するのだつた。↑苦笑した。

四五6⑥叩いてみたが↑叩いてゐたが 8醒めてはゐない↑醒めきつてはゐなかつた

四七2苦笑した。↑苦笑しながら云つた。 4④あそこに↑あそ

こで 11⑥遠慮↑御遠慮

四八7—8くれやしないや。」↑くれやしない。」

四九2僕は↑われわれは 9<10何をしてるんだ。何んだこのさま——

五一6もう同情は……放した。↑千鶴子はもう同情はやめだといふやうに久慈から眼を放して云つた。 8なんだから——↑

なんだから—— 13気持ちの↑気持ちが

五二1—2どこへ行くのだ。↑ナシ 7避け静かに↑避けるやうに静かに 8なるからな。↑なるから、 10どっちも……

来たら↑どちらも幸福になるやうな日が来たなら 11限らな

いさ。↑限らないんだからね。 12 甲斐がないや。↑甲斐がない。 13 明るく……停めた。↑明るい笑顔を久慈に向けて云つた。

五三 10 藁↑一握の藁 10—11 めててさへくれば↑存在してゐてくれば 11 何も有り難がつてくれりや↑有難がつてくれば

五四 1 君↑あなた 7 そろそろ白み↑そろそろもう白み 8 さつぱり↑さつぱりと 11 どうだつて、あれはもういい。↑どうだつていいのだ。 12 久慈はさう思ふと↑とかう思ふと、久慈は 12 頭の↑自分の頭の

五五 11 与へることは、あるひは↑与えることあるひは
五六 2 一層気楽に↑一層幸福に気楽に 3 ⑤ 楽しみになつて↑
楽しみにもなつて 8 新鮮な感じ↑初初しい姿 9—10 黙つてずつと……見なかつた。↑ずつと窓の欄干の傍へよつていつた。

五七 4 来なくちや。↑来なくちや——

五八 1 ⑤ 暢気さうに云ふ↑暢気さうにさう云ふ 3 くるりとまた欄干に肘をつき↑ナシ 12 と、彼は↑——そんなものが何もないのか。彼は

五九 4 眺めながら↑眺めつつ

六〇 3—4 するんだよ。↑するんだ。 4 なかつたのさ。↑なかつたんだよ。

六一 4 ことぢやないよ。↑ことぢやないさ。

六二 3—4 ぎよツとしたまま↑ぎよツとした思ひで 6 感慨が

……来るのだつた。↑感慨を新たにした。 14 久慈は……どさりと身体を↑久慈は争ひの準備を終へた気持ちで身体を

六四 2 ⑤ 描かれる↑描かれた 3 仰ぐのだつた。↑仰いだ。

4 うち貫き↑貫き

六六 4 久慈のままに↑久慈の注意のままに

六七 9 意志といふものは↑ものといふのは 13 「さうだ、どう

も↑「さうだ、悪に似たものだ。われわれはだんだん人間の本性を出すことに習練が出来て来たんじゃないかね。どうも

13 見たまへ。僕らの↑見たまへ。これは真でもなければ美でもない、善でもなければ悪でもない。われわれの

六八 3 ⑤ 「愛とか智とか↑「愛とか智とか信とか 3 みんな

↑近代人は 4 何を拾つたら……墮落だよ。↑何がいいんだ

か説教するのに困つてるのさ。 5 屑拾ひになつたんだ。↑阿

呆になつちやつたんだよ。 7 向うの悪の華↑向うの電気学と

いふ悪の華 10 無になつたら歩くに限る。↑無になつたかな。」

六九①隠し↑隠して

七〇②三幕と淡淡とした↑三幕と同調の淡淡とした

⑤上げた。

↑上げた。千鶴子や真紀子もちやうと同様の興奮が伝つてゐたことを報らせた風

⑦真紀子も……風だった。↑と真紀

子が云つた。⑪⑫一同何んとも……自分ももう↑ほどこす

すべもなく陶醉していく一同を予想してゐたが、自分もなんとなく

⑬僕らは↑われわれは

七一③無類に↑無類の

④回転しながらも↑回転しつつ

⑤

早急さもない↑早急さもなく、

⑤死のやうな↑ナシ

⑥い

くのだつた。↑いくのである。

⑦「凄いなア。」↑ナシ

⑧

来て云つた。↑来た。

⑬誘つた。↑云つた。

⑭めぐる度び

に↑久慈はめぐる度に

七二①②久慈はときどき……その微笑に↑視線が会つたが、昼

間の動揺を後悔するやうに矢代への親しさを泛べ、一層正しく

回つてゐる千鶴子の微笑に

⑥舞台いづばいに↑ナシ

⑥

一面の↑ナシ

⑥⑦形となり↑形をとり

⑩総立ち上つ

て↑総立つて

⑬うつとりとした半眼で↑微笑みながら

⑭放ち変へていくのだつた。↑放つた。

七三②千鶴子は……仰いだ。↑と千鶴子は初めて久慈の耳もとで

訊ねた。

③と久慈は答へた。↑ナシ

⑥背中、今かうし

て↑背に、かうして今や

⑧覚え、何んと男女は↑感じ、何

んと人生は

⑩来るに随ひ↑来ると

⑪近づいた。↑近づ

いて来た。

⑪⑬すると……思はれるのであつた。↑ナシ

七五③④おつもり？」↑おつもりなの？」

七六②美しさには見えるのだつた。↑美しさに久慈には見えるの

であつた。

⑥しまつてゐる妙な頭に↑しまつてゐるのに

⑦どんな風に↑どんなに

七九③懼るるに↑懼るるには

八一⑩高まつて↑高めて

八二⑫この噴水↑この噴水

八四④僕ら↑われわれ

⑥化体なものさ。↑ナシ

⑧整理癖

に舐め尽され↑整理癖の餌となつて

⑬見たいね。あのお爺

さん。」↑見たいだわ。」

八五⑧感じられた。↑思はれた。

⑩群りよる↑ナシ

八六⑤ばかりだけど。——↑ばかりで——

⑦うらやましいな。」

↑うらやましいね。」

八七⑭僕ら↑われわれ

八九③洩れてゐるのだらうと↑もれてゐるのであらうと

⑨臉

など↑臉の光りなど

⑪顎で↑眼で

九〇⑧分つてゐるのよ↑分つてゐるのよ

九二③小声で↑低く

九三⑤「僕ら↑」われわれ ⑨全部↑われわれは全部

九四⑨吹き出る……積らせた店や↑吹き出て来た綿菓子、雪のやうに積つてゐる店や ⑩長い↑ナシ

九五②青葉↑葉 ⑧乗つてゐる人種↑乗つてゐるものの人種

⑩⑤ひらりひらり↑ひらりひらりと

九八⑩久慈は↑久慈に ⑭構へるとき、↑構へるときどき、

一〇二⑤満足も↑満足を ⑤何をしてもしれてゐる↑何をしても自分はしれてゐる

一〇三④⑤残してゐる↑残してゐた

一〇四⑪クニヤン↑クリニヤン

校 異 Ⅱ

二五二⑩⑤塩野さんの↑塩野さんとの

二五六②⑤日華↑日支 ④⑤日華戦争↑日支戦争 ⑥⑤日華

戦争↑日支戦争 ⑦⑤中国↑支那 ⑩⑤誇張せられる↑誇張

張さられる

二五七④⑤中国↑支那

二六〇⑩⑤日華↑日支

二六一②⑤日華↑日支 ⑥⑤中国↑支那

二六二①⑤支那飯店↑支那飯屋 ⑬⑤あるのだ。——↑あるものだ。——

二六八①⑤日華↑日支 ③⑤中国人↑支那人

二六九①⑤そんな↑さういふ ①—⑥⑤ひねくれたつて……愛情だが。↑ひねくれたつてかまはない、日本だけは滅んでくれ

ちや困るとひそかに思ふのだ。これを君は愛国心と云ふかもしれないが、そんなものぢやない。何といふか、たしかに世界の人間の忘れてしまった大切なものが、日本にだけたつた一つあるやうに思ふ。どうもそれは他の国にはなくなつてしまつたものだ。それが世界から無くなれば、世界は今にうちもさつちもいかなくなるにちがひないと思ふ貴重な、ある云ひ難い精神だ。」⑧⑤父母と語る……煮えてをり↑大神に捧げまつらん馬曳きて峠を行けば月冴ゆるなり ⑨—⑭⑤和かさといふか……西洋の方だなア。↑明るさといふか、とにかく涙の出て来るやうなものがまだまだ民衆の中に満ちてゐる。人なんか笑ふよりも、桃の花さへ笑つてくれてれば良いと云ふのと大分違ふ。ところが、日本と支那の知識階級はこのままゆけば、いまに西洋乞食になつてしまふことだけは間違ひない。乞食が日本と支那とを引き摺つていつてどこへ行かうといふのだ。どつちも西洋へ行くのが目的なら、お前は西洋ぢやない東洋だといつて蹴

りつけ合ふにちがひなからう。ここのこの西洋は、東洋が喧嘩してくるほど有難いんだからね。」

二七一③定中国人↑支那人 ③定日華↑日支 ④定中国↑支

那 ⑤定中国人↑支那人 ⑪定中国↑支那

二七五④定中国人↑支那人 ⑥定中国人↑支那人 ⑦定中国

↑支那 ⑩定中国人↑支那人

二七六①定日華↑日支 ④定中国人↑支那人 ⑭定大声↑大

きな声

二七七③定中国人↑支那人 ⑧定中国人↑支那人 ⑫定中国

↑支那

二八〇⑦定物事をするのにも↑物事をするのに

二八三②定踊つてゐるうち↑踊つてゐるうち

二八五①定あこがれてゐるかも↑あこがれてゐるか

二八八⑥ケエドルセイ↑ケエドセル

二八九⑨ケエドルセイ↑ケエドルセ

二九七⑬定帰るところだつたのこと↑帰るところだとのこと

二九八④定議論する↑議論をする

三〇三⑦定香水のいいの↑香水いいの

三〇八⑬定男爵↑公爵 ⑭ばつたり↑ばつたり

三〇九⑥限らないと思つた。↑限らないとも思つた。

三一三⑥定「これまア↑「これはまア

三一四①定手もとに↑もとに

三二三⑩定中国人↑支那人

三二八②定前から↑すると、前から

三二九⑦⑧定中国人↑支那人

三三〇④定矢代は↑矢代も

三三一⑤それでも↑それでは

三三六⑧定思つて。↑思つて？」

三四三②定中国↑支那 ④定中国↑支那 ⑩定中国人↑支那人

人

三四四①定中国人ね↑支那人ね ①定中国人が↑支那人が

三四七⑤定なつてしまつたことは↑なつてしまつたとは

三四八⑫定樹幹↑樹の幹

三五三⑩⑪定手錠を嵌められて↑手錠嵌められて

三六三⑧定世界でだけ↑世界でだけで

三六四⑦定放射状↑放射状

三六七⑧定望むべきではない↑望むべきではない

三七一⑩千鶴子は↑と千鶴子は

三八一⑫定匂ひだけを↑匂ひだけは

三八三④⑤定いまいまいしく思ふ↑いまいまいしくも思ふ

⑬定

中国↑支那

三八七②定中国↑支那

三九〇③定思つてゐる。↑思つてゐる。

三九四⑧定真紀子も↑と真紀子も

三九五①定公衆便所に↑公衆便所へ

つてゐてから

⑤定ひねつてから↑ひね

三九九⑬定意識を↑意識も

(第十七卷)

一七①定お邪魔かしれないけど。↑お邪魔かしれないけど。」

⑫定中国↑支那

二〇③定中国↑支那

⑩定中国↑支那

⑪定中国↑支那

二一⑧定中国↑支那

⑨定中国↑支那

⑪定中国↑支那

⑫定中国↑支那

二六①定頭と合理だ。↑頭とは合理だ。

二八③定中国↑支那

二九⑤定中国↑支那

⑭定中国↑支那

三〇⑫定中国↑支那

⑭定中国↑支那

三一③定中国↑支那

⑧定中国↑支那

三二①定中国↑支那

三五⑭定いいんですよ。↑いいんですよ。

三六①定矢代は↑矢代も

③定立つて↑立つた

四〇⑧定全く↑全くの

四二⑥定彼には↑彼は

四五⑥定叩いてみたが↑叩いてゐたが

四七④定あそこに↑あそこで

⑪定遠慮↑御遠慮

五六③定楽しみになつて↑楽しみにもなつて

五八①定暢気さうに云ふ↑暢気さうにさう云ふ

六四②定描かれる↑描かれた

六八③定「愛とか智とか↑「愛とか智とか信とか

七五③定おつもり?」↑おつもりなの?」

九五⑩定ひらりひらり↑ひらりひらりと

一〇③④定残してゐる↑残してゐた

(昭五四
日文卒)

(未完)